

以下、本文-----

呼吸抵抗検査と肺機能検査を用いた気道可逆性試験の後方視的研究

1. 研究の対象

2012 年 1 月～2022 年 12 月に当院で気道可逆性試験を行った方で、気管支拡張薬吸入前後に肺機能検査と呼吸抵抗検査を受けられた方。

2. 研究目的・方法

気道可逆性試験は気管支拡張薬吸入前後に肺機能検査や呼吸抵抗検査を行い、気道可逆性を評価する検査です。肺機能検査で得られる 1 秒量が気道可逆性を評価する指標であり、喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの診断、治療効果判定のため検査を行います。当院では 2012 年より呼吸抵抗検査を行っており、気道可逆性試験において肺機能検査とともに測定している例が多数あります。呼吸抵抗検査は安静換気のみで測定可能であり、患者さんの負担が少ないことが利点の 1 つですが、気道可逆性試験における評価基準についてはまだ確立されておられません。本研究は、呼吸抵抗検査で気道可逆性を評価するにあたり、着目する測定項目やそのカットオフ値について検討し、今後の呼吸器疾患診療の場で役立てることを目的としています。

方法として、まず 2012 年 1 月～2022 年 12 月の肺機能検査、呼吸抵抗検査の結果から気道可逆性試験の結果を抽出し研究対象とします。次に、研究対象となる患者さんの身体所見や診断名、血液検査の白血球分画の値や、呼気ガス分析の結果などを診療記録より調べます。データを取りまとめた上で、気管支拡張薬吸入前後で呼吸抵抗検査の測定値がどのように変化するか、また肺機能検査項目との関連の有無などについて、統計学的手法を用いて検討します。

研究期間：倫理審査承認後 ～ 2027 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、身長、体重、診断名、受診歴、血液検査の白血球分画、肺機能検査結果（肺活量、1 秒量、1 秒率等）、呼吸抵抗検査結果（5Hz の呼吸抵抗、20Hz の呼吸抵抗等）、呼気ガス分析検査結果。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

高知大学医学部附属病院検査部 吉永 由菜

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮（電話：088-880-2466）

研究責任者：高知大学医学部附属病院検査部 吉永由菜

-----以上